

コーディネーターだより

令和7年9月
八代支援学校
文責 橋本

2学期がスタートして3週間が過ぎました。子供たちの生活のリズムも少しずつ整いつつあるようです。まだまだ暑い日が続いていますので、水分をしっかりとって体調管理に努めていきたいと思います。

さて今回は、前期を振り返って本校のセンター的な機能（＊1）についてお知らせしたいと思います。

まず、相談機能ですが、9月までに、小学部に16件、中学部に10件、計26件の学校見学・教育相談がありました。昨年に比べると、小学校に就学する時点での相談が増えています。本校と居住地の特別支援学級の両方を見学され、その子に合った学びの場を決定されていきます。説明の中では、本校のことだけでなく、特別支援学級や通級指導教室など、選択肢となる学びの場についての情報提供もしているところです。

各学校への巡回相談については、9月現在2件の相談です。通常の学級に在籍する児童の行動観察と支援の在り方についての相談があっています。

次に研修機能についてです。4月に小・中学校、特別支援学校に配置されている特別支援教育支援員の研修会で「一人一人のニーズに応じた支援について」話をしました。講話後のグループ協議では、日頃の悩みとして、担任との引き継ぎや情報共有の時間がなかなかとれないという課題が出されていました。本校でも同じ課題がありましたので、各学部主事が支援員の先生方から話を聞く時間を設けました。

7月には、氷川町の小中学校の特別支援教育コーディネーターの先生方に「子供たちとの関わりの中で見えてきた課題と支援のあり方」についてお話をしました。この日は、コーディネーターの他に、氷川町福祉課、児童デイサービス、保育所からの参加がありました。グループ協議では、それぞれの立場からの情報提供があり、幼保小中、関係機関の情報共有の場になりました。その他、今年度初めて特別支援学級を担任する教員に対する指導力向上研修では、本校から4名の職員がアドバイザーとしてオンライン研修に参加しました。実態の異なる複数の児童生徒を一斉に指導する手立て、自立活動の指導内容についてなど、多くの質問が出されました。

9月には、研修の場の提供として、八代市内と芦北・水俣地域の小中高等学校の初任者19人が本校で研修されました。児童生徒と関わったり、本校職員の指導・支援の様子を見たりする中で、「発達に応じた指導がされていること」「ルールを明確にした指導の大切さ」「見守る・待つ時間の必要性」「家庭との情報共有の大切さ」など、認識を新たにされたことがたくさんあったようです。この研修で得たことをそれぞれの学校で生かしてほしいと思います。

今回は、活動紹介のみになりましたが、後期も小中学校への支援の他、校内への情報提供をしていきたいと思います。

＊1 特別支援学校は地域の小中学校等に支援・助言を行うことが法的に位置づけられています。相談を受けたり、特別支援教育に関する情報提供を行ったり、研修を行ったりしています。